

龍馬 world in 第35回
四万十
地はあつてのニッポウ

今一度、四万十川でせんたくいたし候

2023年

10/28 [土]・29 [日]

本大会 四万十市立文化センター エクスカーション
交流会 新ロイヤルホテル四万十

■主催：龍馬 world in 四万十 実行委員会

問合せ先：龍馬 world in 四万十 実行委員会事務局 〒787-0014 高知県四万十市駅前町8-3 TEL 0880-35-4171

龍馬 world in 四万十 35th

地方あつてのニッポン

今一度、四万十川でせんたくいたし候



● 大会テーマ

地方あつてのニッポン・・・今一度、四万十川でせんたくいたし候

今、地方は少子高齢化による急激な人口減少に歯止めがかからず、未来にむけての希望が見出せないというのが大方の見方だ。一見お先真っ暗のようだが、田舎に暮らす者からすると決してそう悲観的なだけでもない。地方には、都会にない豊かな自然環境や、日本人が大切にしてきた自然に逆らわない営み、お金に換算できない関わりを引き継ぎながら生きている。地方にはしづとい力強さがある。

時代の変化に翻弄されているのはなにも地方だけではないはずだ。新型コロナウイルス感染症の拡大は、いとも簡単に我々の生活基盤を脅かし、技術革新や経済の変化にさらされて、世界中がこれまでの社会モデルが有効でないことに気づきつつ新しいモデルを見つけれずにいる。そろそろこれまでのモノサシを見直す時期がやってきているのかもしれない。

およそ 170 年前の江戸末期、新しい時代の到来を夢見て日本国中を奔走した坂本龍馬、漂着した異国で新しい民主主義を体得したジョン万次郎、新時代の到

来に向けて絶えず学び続けた樋口真吉、今こそ彼らの新しいモノサシを創り出そうとする姿勢から学ぶことが多くあるはずだ。

地球規模でテーマとなっている持続可能な社会の実現に向けたヒントを、世界中が模索している。そのヒントは昔どこにでもあった原風景のなかに、この国の地方がずっと土地や環境と関わり続けて保ってきた調和やバランスの中に見出せるのではないだろうか。モノサシのヒントは地方にあるのかもしれない。

高知県の四万十川流域は東京から時間的距離が最も遠いといわれる地。たしかに遠くて不便だけれど、暮らす人々は人の繋がりを大切にしながら笑って生きている。

情報の喧騒から離れて、豊かに流れる四万十川のほとりに立ち、今一度地方からこの国のせんたくを考えたい。

